

という。竜王北小学校から山梨英和
中学校へと進み、中学卒業までを山
梨で過ごしたが、その当時はバイオ
リンが最優先の生活で、クラブ活動
や寄り道することもなく帰宅して
練習に打ち込んでいた。

中学卒業後はバイオリンに専念す
るため、東京都内の高校に進学。高
校一年生の時に全日本学生音楽コン
クールで一位を受賞。コンクールと
いう場で認められたことが自信につ
ながり、プロへの道を意識し始めた。
高校卒業後にカナダ王立音楽院に留
学。外国の人と言葉が通じなくても
心が通じた経験が音楽を「学ぶ」も
の

から「楽しむもの」に変えたという。
二〇〇三年に日本に帰国。その年
にCDアルバムを出す機会があり、
それをきっかけにプロとして本格的
な活動を始めた。現在では年に二回
のペースでの海外コンサート、その
合間を縫ってのリサイタルやイベン
ト出演、生徒たちへの指導など多忙

カナダ人の父が山梨を選んだのも納
得できるというほど、山梨を愛して
いる。演奏中に曲に気持ちが入り込
むという情景が心に浮かぶとい
うマヤさん。なかでも、小学校の
放課後の校庭や、高台にある実家か
ら見下ろした甲府盆地の夕暮れなど、
山梨の平和で情緒のある風景が多い

「身近にあつて、当たり前前の
存在」。幼少時代は自分の名前を
カタカナで表記することや容姿から
「外国人扱い」されて、引っ込み思
案な性格になってしまったというマ
ヤさん。「でも、言葉で感情や気持
ちを表現することが苦手だった私に
とって、バイオリンは一番の自己表
現手段だった」



「周りの流されずに自分で好きなも
のを見つけて、進む道を選んでほし
い。自分の心の声に耳を傾ければそ
れは必ず見つかるはず」と語るま
なざしに、強い意思を感じた。

身 長一七五cmの長身に、すらり
と伸びた長い手足。バイオリ
ンを持つ姿は、まるで絵画のように
映えるマヤ・フレーザーさん。カナ
ダ人の父と日本人の母を持つ彼女は、
現在、日本・カナダ両国で活躍中の
バイオリニスト。

校一年生の時に全日本学生音楽コン
クールで一位を受賞。コンクールと
いう場で認められたことが自信につ
ながり、プロへの道を意識し始めた。
高校卒業後にカナダ王立音楽院に留
学。外国の人と言葉が通じなくても
心が通じた経験が音楽を「学ぶ」も
の

な毎日過ごしている。なかなか帰
郷できないが、「山梨は時間の流れ
が緩やかなところ。曲を作ったりス
テージの構成を考えたりと、芸術的
な作業をするのに最高の環境。集中
力の高まる場所」と故郷への思いを
語ってくれた。「ここなら家族と一
緒に生活するのにいい場所だ」と、

MAYA FRASER

という。取材中、マヤさん愛用のバイオリ
ンを見せてもらった。「バイオリ
ンの魅力は自由度の高い演奏が可能
なこと。声のように自由に音を操るこ
とができるんです。バイオリンの繊
細なラインや色も好き」とバイオリ
ンの魅力を語ってくれた。意外にも
現在使っているバイオリンは
取材当日持参していただいた
一台のみ。「練習も本番もこ
の一台だけ。いつも一緒にパ
ートナーって感じですね」と
マヤさんは笑う。

バイオリンは一番の自己表現手段——マヤ・フレーザーさん



YAMANASHI People

甲斐のひと、インタビュー

マヤ・フレーザー

1978年甲斐市生まれ。3歳よりバイオリン、5歳よりピ
アノを始め、山梨英和中学校を卒業後、桐朋女子高等学校
音楽科へ進学。その後カナダ王立音楽院グレン・グールド・
スクール、トロント大学大学院を卒業。16歳でデビュー
以来数々のコンクールで受賞し、日本・カナダ両国でバイ
オリニストとして活躍中。2003年にはCDアルバムをリ
リース。現在、演奏活動の傍ら、後進の指導にもあたって
いる。

1月26日には、長野県塩尻市にてリサイタルを開催予定。
詳細は下記URL、マヤ・フレーザーのホームページまで。

取材協力：双葉ふれあい文化ホール